9.3　一般公開など

9.3.1　飛騨天文台一般公開

1999 年から始まった年 1 度の附属天文台の一般公開ですが、これまではずっと花山天文台と飛騨天文台で同じ日に開催していました。しかし、飛騨と花山では気温が大きく異なり両天文台でちょうどよい気候の時に行うのは難しいこと、また天文台の限られた人員では人手が不足しがちであることから、今年度は初めて別の日に行うことになりました。飛騨天文台では 7 月 21 日 (土) の、多くの小中学校が夏休みに入った最初の土曜日に行いました。花山からも大勢の職員・学生が手伝いに来てくれ、例年通りの 100 名余の参加者に対して、いつもより余裕を持って対応を行うことができました。

催し物としては、毎年行っている飛騨天文台にある 5 台の主要な望遠鏡 (太陽磁場活動望遠鏡 SMART、ドームレス太陽望遠鏡 DST、フレア監視望遠鏡 FMT、65cm 屈折望遠鏡、60cm 反射望遠鏡) の解説、太陽の観望、ミニ講演会 (講師：柴田台長)、工作教室 (今回はセロハンテープを用いた偏光ステンドグラス) に加え、新たな試みとしてクイズラリーとシールラリーを行いました。シールラリーは各望遠鏡の写真を 8cm 角くらいのシールにしてその望遠鏡の解説をしているところに置いておき、受付で配布した用紙に貼っていくものです。この 2 つのラリーはかなり好評で、大人の方でも熱中されている方が多数見受けられ、多くの方に全問正解とシールコンプリートの賞品の絵葉書を持って帰って頂けました。

夜の部では月と木星をメインに観望をしてもらうことになっていましたが、時々晴れ間があるものの、残念ながら夜まで残って頂いた方全員に観望して頂くまでには至りませんでした。

飛騨天文台の一般公開には 3 年連続で来ています、という方から、「この一般公開は年々レベルアップしていっていますね。今年はこれまでで一番楽しませて頂きました。」というお言葉も頂きました。来年度は耐震補強工事の関係で飛騨天文台では一般公開は行わない予定ですが、再来年度はさらに喜んで頂けるよう、また新たな企画を練っていこうと思っています。

(野上大作 記)

9.3.2　花山天文台一般公開

花山天文台では、今年度の一般公開は10月20日(土)に開催し、時々曇がでたものの全体に天候に恵まれ、昼間の太陽・夜の月や二重星を400名を越える多くの参加者に楽しんでもらうことができた。

企画としては、

(1) 18cm屈折望遠鏡による太陽像(Hα線)および70cmシーロスタット望遠鏡による太陽分光スペクトルの観望

(2) 飛騨天文台で観測された太陽像のインターネットとTV会議システムを利用したリアルタイム上映と解説(デジタルライブ)

(3) 講演会

柴田 一成（京大理・附属天文台・台長・教授）「太陽フレアの謎」

荒木 徹（京大理・名誉教授）「地磁気とオーロラ」

鶴 剛（京大理・物理第2教室・准教授）「X線衛星を作る」

嶺重 慎（京大基礎物理学研究所・教授）「ブラックホールを天文学する」

竹内 努（名古屋大学高等研究院・特任講師）「紫外線と赤外線でみる宇宙の星形成史」

(4) ポスター展示と(ポスターの解説から正解できる)クイズラリー

(5) 彗星を作ろう、太陽の大きさを測ろう、工作教室

(6) 45cm屈折望遠鏡による月の観望、小望遠鏡による月や二重星の観望や星座案内

などを行い、いずれも好評であった。

左: 講演会, 右: 太陽観望

企画の多くは、大学院生と機関研究員(ポスドク)や若手の非常勤職員を中心にして準備されたもので、特に、展示ポスターとクイズラリーについては大学院生の力によるところが大きい。また、今年度は飛騨天文台と開催日が別ということで、飛騨天文台の職員にも応援いただいた。更に、当日は、京都大学以外からも共同研究者や他大学へ進学した卒業生の方、NPO花山星空ネットワークの会員の方にもお手伝いいただいた。花山天文台の一般公開は職員の数に対して大規模なもので、毎年お手伝いいただける方々なしでは成立しない。ご協力いただいた方々に感謝するとともに、毎年より良いものにできるよう努力していきたい。

(石井 貴子 記)

9.3.3　科博連サイエンス・フェスティバル

京都市青少年科学博物館は常設展示の他に様々な特別イベントを積極的に行っています。その特別イベントの一つ、科博連サイエンス・フェスティバルにお誘いを頂き、昨年度より附属天文台も参加しています。今年は 2008 年 2 月 9 日 (土) に行われました。科博連とは京都市科学系博物館等連絡協議会の略称で、我々の他にも京都市動物園、京大総合博物館、島津総合記念資料館、総合地球環境学研究所など様々な団体が参加しており、各種の展示や講演がなされました。

我々は柴田台長によるミニ講演会「太陽フレアのなぞ」、及び廃棄ＣＤを利用した簡易分光器の工作教室を行いました。サイエンスフェスティバルの参加者は主に小学生とその保護者で、当日は京都では珍しいほど雪が降ったのですが、かえってそれがよかったのかたくさんの方の来訪がありました。

講演会では飛騨天文台やひので衛星で撮られたフレア時の画像が紹介されました。普段何気なく見ている太陽も詳しく観測するとこんなに様々な激しい現象が起きている、ということに興味を持たれたようです。ＣＤ分光器は 60 セットを用意して行ったのですが、最後にはほぼ全てなくなってしまう人気でした。会場には水銀灯、白熱電球、蛍光灯を持ち込み、作成した分光器で実際にそれぞれの光を分光し、光の成分がどのように違うのかを見てもらいました。多くの人から「きれい！」「さっきと光り方が違う！」という声が上がり、光というものに対する理解を深めてもらえたと思っています。

(野上大作 記)